



今年8月の旭川夏まつりでも、多くの方がユニバーサルみこしを楽しんだ(車いす紅蓮隊提供)

担ぐ楽しみ 車いすでも

ユニバーサルみこし 沖縄へ

旭川市内の車いす利用者らの団体、車いす紅蓮隊が中心に製作した「ユニバーサルみこし」が10月8、9の両日、那覇市で開かれる那覇大綱挽まつりに登場する。那覇でパリアフリー情報を提供している団体から要望があり、初めて外部に貸し出すことになった。

(高橋毅)

「紅蓮隊」が初の貸し出し

ユニバーサルみこしは2009年8月の旭川夏まつりに初登場。車いす紅蓮隊と旭川産業高度化センターなどが中心となって作った。台車にみこしを載せ、担ぎ棒の位置は、車いす利用者に合わせた高さ約1.5mにある。台車の前後には高さの違う補助タイヤを付け、移動すると担ぎ手に、揺れるような感触が伝わる仕組みだ。

その後、毎年夏まつりに参加し、今年は障害者に健常者も加わり、約80人がみこしを担いで楽しんだ。

貸し出しは、那覇で活動する団体、パリアフリーネットワーク会議から5月中旬に依頼があった。障害者に旅行情

旭川発「全国に広げたい」

報を提供している旭川の団体、カムイ大雪パリアフリーツアーセンターのブログで、ユニバーサルみこしを知り、打診してきたという。

那覇大綱挽まつりでは、パリアフリーに参加する予定。25日には、同会議の金城睦大さん(18)が、みこしの操作法などを学ぶため旭川入り。金城さんは「みんな楽しんでみこしを担ぎたい」と話す。

みこしは20日、分解され、沖縄に向けて送られた。車いす紅蓮隊の五十嵐真幸代表(25)は「これを切っかけに旭川発のユニバーサルみこしが全国に広がってほしい」と期待を寄せている。